市民俳歌柳壇

柳 壇 荒井宗明

ろうか。小学校から大学まで、その成績を競い合い、勤めの中では、

人は生まれながらにして、競い合う本能的なものを持っているようである。その最初が学校であ

そのポストを争う。

また、隣が新車

にすると、ワンランク上の車にするなど、果てしない競争が続く。

曼珠沙華墓原道となりにけ

万歩計

ルトの穴は動かな

中岡本町

竹内

孝彦

スニー

カー日陰を拾い

帰る

1)

賞味期限明日かも知れ

X

龄

の数

日記 ◎選評(日々とりとめのないことごとを丹念に日記に書き留めておく。「由無し事」は思わず口をついて

小田代の笹原に立つ貴婦人は の独自な歌が成立した。 出た言葉であろうか、実感の重みがある。「歌を紡ぎぬ」繭から繊維を引き出した糸が織物に完成。この 工程を巧みに歌に取り込んだ結句に力量を感じる。作歌のありさまの中に身を置き、ここに作者ならでは

陽の 穂孕む稲の 孤高を持する男体山を背に 残 る畦道ゆけばさわさわと 清原台5丁目 北市

かすかな吐息 一岡本町 高尾 信尚

ウス三人寄れば齢

のこと

辿 りつ 友の 友の墓処に蝉時雨降るの風ならずも君は何方か く山

けき中に杖の音のみ 門くぐり浄土の 峰1丁目 小林 地 星田一草 選

選評

今年の夏は特に暑さが厳しい。

何をするにも物憂さを感じる。

に孤独感が包含されている。

人居の箸の重さの炎暑かな

朝七錠服薬のまま秋に入る 体を支配し、作者の心境がまざまざと思い浮かぶ。 での気だるさが、また、つつましい一人だけの食事

丁寧に形見の現洗ひけり 野沢町 郡司

渡辺 明広

起こる由無し

事の端々を

のやうに歌

に紡ぎぬ

田

原町

五十嵐由美子

駒生町 Ø)

売り家に咲き残りたる花木槿 中今泉5丁目

来客の帰りて寂し蝉 声

紀子

「箸の重さ」の措辞より暑さの中 「炎暑」なる季語が句全

江曽島町

長谷川

うつのみやの ひも 8

弥生1丁目

小

澤

幸雄

■徳川将軍が宿泊した城 江戸時代に徳川幕府が 開かれ、日光に初代家康を祀る東照宮が造られると、 将軍家による日光社参が行われるようになりました。 その規模は、8代将軍吉宗の場合でみると、行列の 人数が約13万人、入足が約22万人、馬が約32万 頭という大行列で、幕府の権力の強さを示す大規模 なものでした。その社参の際に、将軍の宿泊所とし

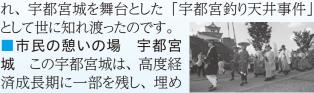
て宇都宮城は使われました。 ■釣り天井伝説 宇都宮城には、徳川将軍の宿泊 にまつわる伝説があります。宇都宮城主であった本 多正純が、徳川家康の孫である駿河大納言忠長を 3代将軍にしようと考え、日光社参のため宇都宮城に 宿泊する家光を釣り天井で暗殺しようと企てますが、 事前に計画がばれてしまい、失敗に終わるという話 です。この物語は史実とは異なりますが、1622年に 2代将軍秀忠が日光社参の際、往復とも宇都宮城に

宿泊する予定が、急に帰り道の予定を変えて宇都宮 城を避け、江戸に帰ってしまい、その後、正純は字 都宮城を取り上げられてしまったことが元となっていま す。この話が後に講談や歌舞伎の題材として脚色さ

として世に知れ渡ったのです。

徳川将軍も泊まった

■市民の憩いの場 宇都宮 この宇都宮城は、高度経 済成長期に一部を残し、埋め 立てられてしまいましたが、平 成19年に宇都宮城址公園の



▲宇都宮城址まつり

再整備により、現在の姿に生まれ変わりました。毎年 10月には、日光社参を模した社参行列などを行う「伝 統文化と歴史の祭典 宇都宮城址まつり」を開催 するなど、今では市民に親しまれています。

働文化課☎(632)2764

1人に付き俳句3句、短歌3首、川柳3句以内。対象は市内在住の人で、未発表 作品に限ります。はがきに、作品(漢字にはふりがなも付けて)・住所・氏名(ふりがな)・応募する壇名 37 を書き、毎月20日(消印有効)までに、〒320-8540市役所広報広聴課へ。俳句・短歌・川柳の併記は不可。 市内に在住か通学している小・中学生からも応募をお待ちしています。 働広報広聴課☎(632)2028